

Q

席の周りを所有物で囲むのはなぜですか？

試験期間中の図書館でのことです。自習室にある6人がけの机は四隅だけが埋まっています、それぞれの席の人たちは、鞆、本、ペットボトル、携帯電話や筆入れを出して席の周りを囲んでいました。なぜ、こういう要塞めいたものを作ってしまうのでしょうか。

A

札幌学院大学人文学部教授

森 直久 (もり なおひさ)

6人がけの四隅が埋まっていたということは、真ん中の一席が空いていたということですね。詰めて座ると、隣の人と肘や脚が触れてしまうことがあります。ホール (Hall, 1970) が密接距離と呼ぶこの距離帯には、普通見知らぬ者どうしが座ることはありません。知らない人との身体的接触があまり心地良い体験でないことは、満員電車を経験したことがある人ならわかると思います。一席おけば、身体接触の可能性は低くなります。さらに間に所有物を置けば、この可能性はさらに低くなります。隣人と接触する前に、張り巡らした物に体が当たり、自分が相手に近づきすぎていることが感知できます。

正面の席も、見知らぬ人どうしではしばしば避けられる席です。互いによく見えてしまうことが回避される原因です。知らない人に、自分の顔の表情や造作を見られるのは嫌ですよ。また、目が合ってしまうと気まずくありませんか。しかし試験期間中のように、席の確保が優先される場合は、身体接触の可能性が低く、あえて視線を向けなければ視線接触は回避できるゆえ、この正面の席はしばしば埋まります。あなたが見たのはこの光景ですね。

隣人との間の所有物には身体接触回避の効能が考えられましたが、正面の人との間の所有物はいったいどうして置かれていたのでしょうか。突っ伏して手を伸ばすようなことをしない限り、身体接触は考えにくい。視線接触を防止するために置かれていたのでしょうか。しかし互いの顔への注視を防ぐほど、それらの所有物には高さがありません。では、どうしてでし

うか。ゴフマン (Goffman, 1972) は、空間の所有権が表示物と呼ぶべきサインによって可視化されると述べました。そのうちの一つ「境界表示物 (boundary markers)」は隣接したなわばり間の境界線を表示します。正面の人との間に置かれた所有物は、これだったのではないのでしょうか。隣の人との間に置かれた所有物にも、この機能はあると思います。混雑する図書館であなたが目撃したのは、席の周囲に境界表示物を配置し、互いのプライバシー空間を尊重しようとする人々の行動だったのだと思います。

プライバシー空間への侵入は、関係が親密であるほど許容されます。あなたは一人で図書館に行ったのですか。友達と？ あっ、彼氏と。隣り合って座りましたか？ えっ、間に物を置かれた。あなたへの心情が見てとれるようですね。あ、いや、彼はあなたのプライバシーを尊重してくれたのかも。「絶対に許さないっ！」なんて言わないでくださ～い。

文献

- Hall, E. T. (1966) *The hidden dimension*. Garden City, NY: Doubleday. [E. ホール/日高敏隆・佐藤信行訳 (1970) 『かくれた次元』みすず書房]
- Goffman, E. (1972) *Relations on public: microstudies of the public order*. New York: Harper & Row.



Profile — 森 直久

札幌学院大学人文学部教授。専門は認知心理学、社会心理学。主な著書は、『心理学者、裁判と出会う：供述心理学のフィールド』（共著、北大路書房）など。